

宮城県新生物レジストリー

坪野 吉孝

東北大学大学院公衆衛生学

1. 歴史と組織

宮城県地域がん登録は、昭和26年、東北大学医学部公衆衛生学教室瀬木三雄教授らが、県内のがん罹患調査を行ったのがきっかけとなり、昭和34年より、本格的な地域がん登録事業として開始されました。昭和47年以降の長年にわたり、高野昭先生らが中心となって実務を進めてきましたが、平成8年度以降は、私達が実務を引き継ぎ、現在に至っています。

宮城県の地域がん登録事業は、宮城県保健福祉部から財団法人宮城県対がん協会への委託事業として行われています。対がん協会会長の委嘱により、「宮城県新生物レジストリー委員会」が組織され、運営上の意思決定を行

< 前頁下から続く >

ームド・コンセントのただし書き」の要件を満たしていると説明することにより、「本人の同意を得ないで収集し利用する地域がん登録事業」について、審議会等で承認を得ることは可能と考えます。

次に、「疫学研究に関する倫理指針とがん登録事業について」により、「連結不可能匿名化されていないがん登録データを用いて行う個々の疫学研究に対しては、本倫理指針が適用される」こととなりました。したがって、このような疫学研究に関しては、研究者の所属する研究機関の倫理審査委員会の承認を得ることが必要となります。これに応じて、がん登録資料の利用規定等を変更する必要があると考えます。たとえば、大阪府がん登録のがん登録資料利用取扱い要領では、個人同定指標を含まない資料と、個人同定指標を含む資料とで扱いを分けています。後者については、「疫学研究に関する倫理指針とがん登録事業について」を受けて、資料利用に関する誓約書の提出に加え、研究機関の倫理審査委員会の承認を付して利用申請してもらうよう、変更する必要があると考えており、早速、この変更のための作業にかかりつつあります。なお、個人同定指標を含まない資料の利用に関しても、がん登録資料の利用に関して透明性を図るため、がん登録室関係の研究者を含めすべて、がん登録資料利用の手続きを踏む必要があります。がん登録資料利用規定をまだ定めていない登録室では、これを早急に定める必要があると考えます。大阪府がん登録資料登録資料利用取扱い要領に関しては、大阪府がん登録のホームページ登録資料利用の手引き (<http://www.mc.pref.osaka.jp/ocr/tebiki.pdf>) からダウンロードできますので、参考にしてください。

っています。委員会は、県医師会長を会長として、東北大学・医師会・宮城県・対がん協会の代表者約20名で構成されています。具体的な実務は、対がん協会にがん登録室を設置して行っています。私が大学との兼務でがん登録室長を務めさせて頂いているほか、5名の常勤職員(2名は診療情報管理士)と1-2名の非常勤職員が勤務しています。

2. がん登録の現状

平成9年の状況は、宮城県人口2,360,811人に対して、がん罹患数が9,375件、がん死亡数が4,715人、DCNは17.8%、DCOも17.8%、ID比は1.99でした。

宮城県地域がん登録は、がん罹患症例の収集にあたって、病院からの届出報告ではなく、登録室からの出張採録が大きな比重を占めているのが特徴です。現在、県内約30の主要病院から年間約18,000件の症例情報を収集していますが、数施設を除く大部分の施設では、症例情報の全部または一部を、出張採録により集めています。

出張採録は、がん登録室の職員と、東北大学大学院公衆衛生学教室の医師である教官と大学院生が、協力して行っています。約30の病院を年1回づつ、6-7ヶ月かけて回ります。1病院について3-7日かけて、1年分の症例を採録します。1日あたり、公衆衛生学教室のスタッフ1-2名と、がん登録室の職員2-3名が、1台の車に乗って病院を訪問します。仙台市から離れた地域の病院を訪問する場合は、朝7時前に出発して午後6時過ぎに戻ることも少なくありません。冬場で雪に見舞われて、夕方病院を出て仙台市内に戻ったのが10時過ぎなどという不運に見舞われることも、まれにあります。

収集した資料の整理や入力も、がん登録室で行っています。Windows NT サーバ1台とクライアントPC7台のシステムで作業をしています。

3. 資料の活用

収集したがん罹患症例の資料を、罹患率の計測以外の研究に数多く利用していることも、宮城県地域がん登録の特色です。がん登録資料を研究目的で利用することを希望する研究者には、宮城県新生物レジストリー委員会に申請書を提出してもらい、研究の科学性・倫理性や、個人情報保護措置の適切さなどを審査した上で、利用を許可しています。

がん検診の有効性の評価に関する研究を、これまで数多く行ってきました。宮城県で行った検診の死亡率減少効果に関する症例対照研究のうち、便潜血検査による大腸がん検診の研究(1993年)は、この検診を老人保健事業に導入する際の根拠の一つとなりました。間接X線と

< 次頁下へ続く >

第24回国際がん登録学会のお誘い

岡本 直幸
神奈川県立がんセンター

標記の学会が2002年6月25-27日の3日間、フィンランドのタンペレ(ヘルシンキの北西180km)で開催されます。プログラムを以下に載せています。また、今回は前日の24日に、統計の勉強会が開催されます。これだけでも参加する価値はあると思います。抄録の〆切は3月15日です。詳細は味木先生(大阪)あるいは岡本(神奈川)まで。

Pre-congress meeting programme

Monday, 24 June 2002,

- 09.00-17.00 IACR Executive Board Meeting
Venue: Pyynikinlinna, Tampere
- 09.00-12.00 Advanced statistical course on latest methods in prediction of incidence and mortality
Course Director: Prof. Timo Hakalinen
Venue: Tampere School of Public Health (Terveystieteen laitot)
- 13.00-16.00 Advanced course on latest methods in survival analysis
Course Director: Dr. Paul Dickman

<前頁下から続く>

喀痰細胞診による肺がん検診の研究(2001年)は、それまで批判が多かったこの検診の有効性を再確認しました。一方、視触診単独での乳がん検診の研究(1999年)は、死亡率減少効果を確認することができず、その後のマンモグラフィ導入を進めるきっかけになりました。このように、宮城県のがん登録資料を用いて行った研究が、わが国のがん予防対策にも重要な役割を果たしています。

最近では、公衆衛生学教室が行っている3つの大規模コホート研究(13万人)にもがん登録資料を活用し、緑茶・飲酒・栄養などの生活習慣と、がんリスクとの関係についての研究を進めています。

4. おわりに

平成8年度に私達が実務を引き継いでから数年が経過し、日常の活動もようやく最近軌道に乗ってきました。今後は、罹患率だけではなく生存率の計測も継続的に進めるよう、態勢を整えて行きたいと考えています。

地域がん登録事業は、病院・医師会・大学・行政など、関係者の方々の大きなご協力に支えられてはじめて継続できるものであることを、日々感じています。こうした方々の期待と信頼に応えられるよう、今後も努力したいと考えております。

Venue: Tampere School of Public Health
(Tervvstieteen laitot)

Congress meeting programme

Tuesday, 25 June 2002

- 08.00-09.00 Registration, setting up the posters
- 09.00-09.30 Opening ceremony
- 09.30-12.30 Theme 1: Environmental epidemiology
- 13.30-16.00 Theme 2: Evaluation of interventions
- 17.00-18.00 Reception of the City of Tampere at Raatihuone, the Tampere City Hall
- 18.00- Boats leave for the island of Viikinsaari from Laukontori Harbour
- 19.00- Informal outdoor buffet dinner on the island of Viikinsaari

Wednesday, 26 June 2002

- 09.00-12.30 Thema 3: Biological and genetic data banks and cancer registries
- 13.30-16.30 Thema 4: Survival analysis including quality of life
- 16.30-17.00 Finnish Cancer Registry 50 years
- 19.30- Congress Dinner, Aleksanterin Palatsi

Thursday, 27 June 2002 Venue: Tampere Hall

- 09.00-10.30 Theme 5: Confidentiality and ethics
- 11.00-11.30 Poster presentations and prizes
- 11.30-12.30 IACR Business Meeting Honorary Membership
- 12.30-13.00 IACR 2003 Closing remarks
- 13.00-14.00 Lunch

